

# 百人一首集 2

二〇一三年二月十四日 改訂

ひやくにんいつしゆ べんきよう しかた  
百人一首の勉強の仕方

●作文教室 言葉の森

一日に三首を、三十回ぐらい音読み、三首続けて暗唱できるように  
しましょう。かかる時間は十分ぐらいです。

続けて暗唱できる人は、一週間で九首、一か月で二十七首続けて  
暗唱できるようにしていきましょう。

言葉の意味を知りたいときは、古語辞典やウェブ古語辞典で調べま  
しょう。

ウェブ古語辞典

<http://kobun.weblio.jp/>



百人一首集は、家庭学習国語のページにあります。

<http://www.mori7.com/kg/koku/>

やまぎ

山里は冬ぞさびしきまさりける人目も草もかれぬと思へば 源宗于朝臣 古今集

こころあ

心あてに折らばや折らむ初霜のおきまどはせる白菊の花 凡河内躬恒 古今集

ありあ

有明のつれなく見えし別れより暁ばかり憂きものはなし 壬生忠岑 古今集

あさぼらけあ

朝ぼらけ有明の月とみるまでに吉野の里にふれる白雪 坂上是則 古今集

やまが

山川に風のかけたるしがらみは流れもあへぬ紅葉なりけり 春道列樹 古今集

ひさ

久方の光のどけき春の日にしづこころなく花の散るらむ 紀友則 古今集

たれ

たれをかも知る人にせむ高砂の松も昔の友ならなくに 藤原興風 古今集

ひとは

人はいさ心も知らずふるさとは花ぞ昔の香にほひける 紀貫之 古今集

なつ

夏の夜はまだ宵ながら明けぬるを雲のいづこに月宿るらむ 清原深養父 古今集





